
2012 年度定例会総会開催通知（会告）

下記により 2012 年度日本メディア学会定例総会を開催いたします。会員各位の出席をお願いいたします。なお、ご出席されない方は、8 月 27 日（月）必着で、委任状をお送りください。

2012 年 8 月 19 日
日本教育メディア学会
会長 久保田 賢一

記

正会員各位

1. 日 時：2012 年 8 月 31 日（土）15:30 - 16:20（第 1 日目）

2. 場 所：東北学院大学土樋キャンパス<621 教室>

3. 内 容：

（1）議案

第 1 号議案 2011 年度事業報告及び収支決算承認の件

- ① 機関誌発行
- ② 年次大会の開催
- ③ 学術交流等・研究会等の開催
- ④ 2011 年度収支決算（案）、監査報告

第 2 号議案 2012 年度事業計画及び収支予算承認の件

- ① 機関誌発行
- ② 年次大会の開催
- ③ 学術交流等・研究会等の開催
- ④ 2012 年度収支予算（案）

第 3 号議案 会長、理事、監事承認の件

- ① 新会長挨拶及び新役員紹介
- ② 表彰「日本視聴覚教育協会・井内賞」審査経過と結果報告
- ③ 2013 年度年次大会
- ④ その他

以 上

第1号議案

日本教育メディア学会 平成23年度会計収支決算(案)

自：平成23年4月1日～至：平成24年3月31日

(1) 収入の部

収入項目	収入額	備考
繰越金	3,026,411	2010年度から繰り入れ
正会員会費	1,519,000	219名分
学生会員会費	112,000	28名分
団体会員会費	307,000	6団体
購読会員会費	28,000	4会員
過年度正会員会費	412,000	のべ19名分
過年度学生会員会費	8,000	のべ1名分
過年度団体会員会費	0	
過年度購読会員会費	0	
新入会金	66,000	13名分
雑収入	100,000	雑誌販売 2,000円, 別刷り印刷 98,000円
利子	573	
研究会決算による戻入	87,177	
計	5,666,161	

(2) 支出の部

支出項目	支出額	増減額	備考
通信運搬	340,847	▲90,847	学会誌・別刷・学会通信
消耗品	13,184	36,816	消耗品費
設備・什器	0	0	
印刷製本	938,760	1,261,240	学会誌 17(1), 17(2), 別刷・学会通信の印刷・製本 ※18巻(合併号)が平成24年度発行に繰越
会議費	10,967	89,033	理事会・編集委員会
国際会議開催補助費	0	350,000	国際会議(ICOME2013)開催補助費(積立)を平成24年4月に計上
借損料	0	50,000	関大東京センター, ICUダイアログハウスを無料で使用できたため
旅費	104,560	▲4,560	事務局旅費, 会計監査旅費
諸謝金	165,000	235,000	英文校閲謝金・事務局補助謝金
年次大会赤字補填	193,701	▲193,701	2010年度 熊本大会の赤字補填
年次大会運営費	409,723	▲9,723	2011年度年次大会運営費(国際基督教大学)
研究会運営費	112,835	87,165	2011研究会委託費 3回分
企画委員会委託費	0	100,000	企画委員会委託費
雑費	36,760	▲16,760	振込手数料(16,500円)・オンライン口座管理費(12,600円)・サーバー代(7,560円)
繰越金	3,339,824	▲3,339,824	2012年度会計に繰り越し
計	5,666,161	607,250	

第2号議案

日本教育メディア学会 平成23年度会計予算(案)

自：平成24年4月1日 ～ 至：平成25年3月31日

(1) 収入の部

収入項目	収入額	備 考
繰越金	3,339,824	2011年度から繰り入れ
正会員会費	1,715,000	7,000円×245名 (納入率70%)
学生会員会費	112,000	4,000円×28名分 (納入率70%)
団体会員会費	350,000	7団体
購読会員会費	84,000	12会員
過年度正会員会費	308,000	44名分 (未納者の40%)
過年度学生会員会費	24,000	6名分 (未納者の40%)
過年度団体会員会費	0	
過年度購読会員会費	0	
新入会金	135,000	15名分
雑収入	100,000	雑誌販売および別刷り印刷
計	6,167,824	

(2) 支出の部

支出項目	支出額	備 考
通信運搬	300,000	学会誌・別刷・学会通信・理事選挙郵送費
消耗品	50,000	消耗品費
設備・什器	0	
印刷製本	1,200,000	学会誌 18(1/2 合併号), 19(1), 19(2), 別刷・学会通信
会議費	100,000	理事会・編集委員会・事務局会議費
国際会議開催補助費	700,000	ICOME2013 開催補助費 (2011年度分の積立て金 35万円を含む)
借損料	50,000	理事会・編集委員会会議場借料
旅費	100,000	選挙管理委員会・理事会・編集委員会・事務局旅費
諸謝金	500,000	英文校閲謝金・事務局補助謝金
年次大会委託費	400,000	年次大会開催委託費
研究会委託費	200,000	研究会委託費 2回分
企画委員会委託費	200,000	企画委員会委託費
雑費	20,000	振込手数料・オンライン口座管理費 1,000円/月
予備費	2,347,824	
計	6,167,824	

日本教育メディア学会 第18回年次大会開催のお知らせ

I. 開催期日・会場等

開催期日：2012年8月31日（金）-9月1日（土）

開催場所：東北学院大学

懇親会：会場：ホテルメトロポリタン仙台 21F・SkyHall「銀河」（JR仙台駅直結）

II. 大会日程

日 程	時 間	内 容
8/31（金）	12:00 - 13:00	受付
	13:00 - 15:00	一般研究 A1～E1 発表
	15:30 - 16:20	総会
	16:30 - 17:30	特別対話 「これからの教育メディアと学びのデザイン」 久保田賢一氏（関西大学総合情報学部教授） 鈴木克明氏（熊本大学大学院社会文化科学研究科教授）
	18:30 - 20:30	懇親会 会場：ホテルメトロポリタン仙台 21F・SkyHall「銀河」（JR仙台駅直結）
9/1（土）	9:00 - 9:30	受付
	9:30 - 11:30	一般研究 A2～E2 発表
	11:30 - 12:30	昼食
	12:30 - 14:30	シンポジウム 「近未来の教育メディア環境と授業実践」 コーディネータ：中川 一史（放送大学教授） 稲垣 忠（東北学院大学准教授） 登壇者： ・ 清水 雅之（上越教育大学教職大学院 特任准教授） ・ 新田 晴之（東北学院中学校・高等学校 教諭） ・ 鳥越 和貴（横浜市立北方小学校 教諭） ・ 森下 耕治（光村図書出版株式会社 企画開発本部）
	15:00 - 17:00	課題研究 I 教育における情報端末の活用 II 教育におけるゲーム・ワークショップ III メディア接触の現状と課題

Ⅲ. 大会参加者へのご案内

1. 会場までのアクセス

JR「仙台駅」から徒歩20分

地下鉄仙台駅より富沢駅行乗車、「五橋駅」下車、南1出口より徒歩5分、または「愛宕橋駅」下車、西1出口より徒歩5分

飛行機ご利用の場合

飛行機でお越しの方は、仙台空港から空港アクセス鉄道で長町駅までお越しいただき、長町駅にて仙台地下鉄に乗り換えて愛宕橋駅下車が最短です。

※会場では十分な駐車場を確保することができません。公共交通機関でお越しください。

2. 会場の案内および受付

すべて6号館（図中の⑥）の2階以上を使用します。地下鉄でお越しの場合、東門（図中⑭と⑨の間）から入られると最短です。受付は6号館2階です。

受付場所……6号館 2F

受付時間……8月31日（金）12:00 -



大会参加費等

- ・ 一般会員（発表論文集代を含む） 6,000円
- ・ 学生会員（発表論文集代を含む） 4,000円
- ・ 一般（非会員）参加者（発表論文集代を含む） 7,000円
- ※ 幼稚園～高校の教員 2,000円
- ・ 懇親会費：学生 3,000円 ・ 学生以外 5,000円

名札……受付で名札をお渡しします。所属及び氏名をご記入の上、大会期間中の会場内では必ず名札をお付け下さい。

※事前の参加申込は、7月31日（火）をもって締め切りしました。参加費の払込がまだの方は、前々日までに銀行口座にお支払いいただくか、当日受付にてお支払い下さい。

3. 総会

8月31日（金）15:30 - 16:20 に総会を行います。

4. 懇親会

8月31日（金）18:30 - 20:30 にホテルメトロポリタン仙台21F・SkyHall「銀河」におきまして懇親会を開催いたします。皆様お誘い合わせの上ご参加下さい。会費は学生 3,000円、学生以外 5,000円です。

Ⅳ. 研究発表者（課題研究・自由研究）へのご案内

1. 発表までの準備

- ・ 発表者（登壇者）は本学会の会員であることが必要条件です。また、2012年度の年会費の納入がお済みかどうか、今一度ご確認下さい。未納の方は、学会事務局受付でお払い込み下さい。
- ・ 会員1名が発表できる件数は、課題研究1件、自由研究1件、計2件までです。

2. 発表当日

- ・各会場には、セッションの進行を行う「座長」（課題研究は「コーディネータ」）を置きます。
- ・配布資料がある場合、セッション開始前に座長にお渡しください。座長が資料を配布いたします。
- ・各会場に、MS Office XP がインストールされたWindows パソコンとプロジェクタを用意します。利用可能な媒体は、USBメモリまたはCD、DVDです。これ以外の機材、ソフト等を使用する場合及びハンドアウトなど配布資料は、各自でご準備ください。発表が円滑に行われますよう、プレゼンテーションソフトが動作するかセッションの開始前に必ずテストを行っていただきますよう、お願い申し上げます。また、ご持参いただいたPC をプロジェクタに接続される場合は、プロジェクタ側の能力に応じてPC側の設定を変更する必要がある場合がありますので、特にご注意下さいますよう、お願い申し上げます。

座長・コーディネータへのお願い

- ・一般研究はセッション毎にお二人の座長をお願いしております。事前にご相談の上、進行をお願いいたします。
- ・複数のセッションが同時並行で進みますので、予定時間での進行にご協力をお願いいたします（他のセッションから途中で移動される方がおります）。
- ・急な発表取り消し、欠席者が出た場合にも、発表時刻の繰上げは行いません。空いた時間は座長の裁量で質疑・討論等に当ててください。
- ・座長はタイムキーパーを兼ねていただきます。
- ・課題研究の発表時間等は、コーディネータにお任せします。

大会プログラム・第1日・8月31日（金）

A 1 一般研究（621教室）

8月31日 13:00-15:00

座長：佐々木輝美（国際基督教大学）・浅井和行（京都教育大学）

- A1-1 「メディア・コミュニケーション科」の開発(1)
浅井和行（京都教育大学）・山川拓（京都教育大学附属桃山小学校）・中橋雄（武蔵大学）
- A1-2 「メディア・コミュニケーション科」の開発（2）
山川拓（京都教育大学附属桃山小学校）・浅井和行（京都教育大学）・中橋雄（武蔵大学）
- A1-3 映像制作体験型教材を活用したメディア教育に対する評価
中橋雄（武蔵大学）・藤井達也（武蔵大学大学院）・中川一史（放送大学）・平野浩幸（日本放送協会）
- A1-4 テレビゲームにおける反社会的行動表現の解釈の違い
佐々木輝美（国際基督教大学）・林志修（Ji Soo LIM）（国際基督教大学大学院）
- A1-5 教育映画『南洋諸島』の映像の分析-制作意図との関連-
佐藤知条（湘北短期大学）

B 1 一般研究（631教室）

8月31日 13:00-15:00

座長：朝倉徹（東海大学）・塚本美恵子（駿河台大学）

- B1-1 フォト・リテラシーの評価に求められる教師のスキル
岡部昌樹（金沢星稷大学）・吉田貞介（金沢学院大学）
- B1-2 子どもの映像視聴に見られる文化の影響
塚本美恵子（駿河台大学）
- B1-3 生涯学習におけるメディアリテラシーとしての映像記号論
市川昌（江戸川大学名誉教授）
- B1-4 学習者のメディア特性の理解の類型化の試み
後藤康志（新潟大学教育・学生支援機構）
- B1-5 メディアとしての教師
朝倉徹（東海大学課程資格教育センター）

C 1 一般研究（632教室）

8月31日 13:00-15:00

座長：佐藤慎一（日本福祉大学）・山室公司（大阪府立摂津高等学校）

- C1-1 学校 Web ページにおけるアクセス権制御の有効性について
山室公司（大阪府立摂津高等学校）
- C1-2 院内学級における学習支援に関する研究-子ども同士のインタラクションを通じた授業実践を事例に-
植田詩織（関西大学大学院）・久保田賢一（関西大学）
- C1-3 PBL 中のインフォーマルな SNS 活用状況の分析
佐藤慎一・影戸誠・ゲーリー カークパトリック（日本福祉大学）
- C1-4 遠隔教育者を支える同価値理論と交流距離理論
鈴木克明（熊本大学）
- C1-5 海外体験型学習における SNS を活用した振り返りの実施と効果
平川成一（関西大学大学院）

D 1 一般研究 (6 4 1 教室)**8月31日 13:00-15:00**

座長：寺嶋浩介（長崎大学）・南部昌敏（上越教育大学）

D1-1 協働と省察による校内教員研修が教師の授業力の向上に及ぼす影響（4）

南部昌敏（上越教育大学）・金城勲（兼城小学校）・上原周子・奥土晴夫・上原勝晴（島尻教育研究所）・小林稔（京都教育大学）・浦野弘（秋田大学）・三橋功一（北海道教育大学）・井上久祥・城間祥子（上越教育大学）

D1-2 SEAMEO RETRAC における教員研修の企画と実施および期待

篠原文陽児（東京学芸大学）

D1-3 現役教員の研究会に対する期待についての検証

亀山俊・村川弘城（関西大学大学院）

D1-4 教員養成における ICT 活用指導力向上のための一提案 -教科教育法からのアプローチ-

寺嶋浩介（長崎大学）

D1-5 電子黒板の利用技術研修カリキュラムの開発と施行

寺岡裕城（京都教育大学大学院）・富永直也（八幡市立有都小学校）・平島和雄・村林由香里・小長谷直樹・浅井和行（京都教育大学大学院）

E 1 一般研究 (6 4 2 教室)**8月31日 13:00-15:00**

座長：今野貴之（目白大学）・黒上晴夫（関西大学）

E1-1 ルーブリックの作成手順についての考察

黒上晴夫（関西大学）・小島亜華里（関西大学大学院）

E1-2 思考スキル習得のためのシンキングツール活用

小島亜華里・三宅貴久子・泰山裕（関西大学大学院）・黒上晴夫（関西大学）

E1-3 歴史学習における放送番組活用の変遷

菅原弘一（仙台市立吉成小学校）・稲垣忠（東北学院大学）

E1-4 児童の思考を促す授業設計の日韓比較 -多声的ビジュアルエスノグラフィーを用いて-

今野貴之（目白大学）・岸磨貴子（京都外国語大学）

E1-5 低・中・高学年の学習経験を活かす小学校外国語活動の実践

原子文子（藤沢市立湘南台小学校）

E1-6 地域学習の再検討

加藤隆弘（金沢大学）・水越敏行（大阪大学・名誉教授）

総会 (6 2 1 教室)**8月31日 15:30-16:30****特別対話「これからの教育メディアと学びのデザイン」(6 2 1 教室) 8月31日16:30-17:30**

コーディネータ：黒上晴夫（関西大学）

教育メディア学会では、教育とメディアをめぐる今後の展望についてどのようにとらえているのでしょうか。教育メディア学会第6期会長の久保田賢一教授（関西大学）と、同副会長であり、会場校である東北学院大学に勤務されていたこともある鈴木克明教授（熊本大学大学院）にご登壇いただき、教育メディア研究の今後についてご対談いただきます。

- ・久保田賢一（関西大学総合情報学部教授・第6期教育メディア学会会長）
- ・鈴木克明（熊本大学大学院社会文化科学研究科教授・第6期教育メディア学会副会長）

大会プログラム・第2日・9月1日(土)

A2一般研究(621教室)

9月1日 9:30-11:30

座長:小笠原喜康(日本大学)・栗田るみ子(城西大学)

A2-1 全学的なe-learning普及施策を踏まえた教育のe-learningへの意識変容に関わる研究
仲道雅輝(熊本大学大学院、愛媛大学)・佐藤慎一(日本福祉大学)・鈴木克明(熊本大学)

A2-2 日本語教師の実践を検証するためのeポートフォリオ
加藤由香里(東京農工大学)

A2-3 教職実践演習へ向けたデジタルファイルの再利用に関する調査
栗田るみ子(城西大学)

A2-4 大学教育におけるiPadの活用とその課題
小笠原喜康(日本大学)

A2-5 フィジカルアセスメント教育のeラーニングにおける教材作成者向けの事例型クイズテンプレートの試作

高橋暁子(熊本大学大学院)・吉里孝子・本尚美(熊本大学医学部附属病院)・鈴木克明(熊本大学大学院)

B2一般研究(631教室)

9月1日 9:30-11:30

座長:小林祐紀(金沢市立小坂小学校)・佐藤靖泰(富谷町立東向陽台小学校)

B2-1 ICT機器活用による人間力の向上

平島和雄(京都教育大学附属桃山小学校)・谷口和成・浅井和行(京都教育大学)

B2-2 校務支援システムの活用と評価

松野成孝(松戸市教育情報センター)・宮武英憲(城西大学)

B2-3 IDをベースにした「ICT活用授業デザインパッケージ」の開発

佐藤靖泰(富谷町立東向陽台小学校)・稲垣忠(東北学院大学)

B2-4 電子黒板活用時の生徒の情報付加に関する事例研究

金子俊明・渡邊明志(筑波大学附属聴覚特別支援学校)

B2-5 情報端末の活用場面における学習者の発話分析

小林祐紀(金沢市立小坂小学校)・中川一史(放送大学)

B2-6 特別支援教育におけるICTを活用した指導方法の開発と評価—通常学級を対象として—

吉田誠也(長崎大学大学院)・寺嶋浩介・内野成美(長崎大学)・小清水貴子(静岡大学)・藤木卓(長崎大学)

C2一般研究(632教室)

9月1日 9:30-11:30

座長:三宅正太郎(福山大学)・市川尚(岩手県立大学)

C2-1 認知的方略の学習を支援するドリル型教材シェルの設計

市川尚(岩手県立大学)・鈴木克明(熊本大学大学院)

C2-2 通信制高校におけるスマートフォンを活用した学習コンテンツの開発

鈴木祐・中澤匠吾・寺岡浩平・森山了一・大泉由香(日本放送協会学園高等学校)

C2-3 簿記会計の知識を生かしたプログラム学習教材の提案

白鳥義明・栗田るみ子(城西大学)

C2-4 ストーリー文脈を自分の現実・体験に結びつけるアドオンの提案

竹岡篤永（九州大学経済学研究院）根本淳子・喜多敏博・鈴木克明（熊本大学大学院）

C2-5 映像表現のためのデジカメを使った驚き盤制作について

三宅正太郎（福山大学）

D 2 一般研究（6 4 1 教室）

9月 1日 9:30-11:30

座長：影戸誠（日本福祉大学）・北村順生（新潟大学）

D2-1 被災地の内と外をつなぐメディア実践型の地域間交流プロジェクトの試み

北村順生（新潟大学）

D2-2 学生の情報交換に基づく就職活動支援

田畑圭介・小林淳一・田畑圭介（金沢学院短期大学）

D2-3 構成主義に基づいた高等教育の学習環境デザイン

岸磨貴子（京都外国語大学）・久保田賢一（関西大学）

D2-4 多様な学生の学びをデザインする

影戸誠・佐藤慎一・ゲーリー カークパトリック（日本福祉大学）

D2-5 情報処理教育におけるクラスメートというメディア

菊地紀子（帝京短期大学）・篠原文陽児（東京学芸大学）

D2-6 大学におけるメディア・リテラシー教育カリキュラムの実態分析

近藤尚（中部大学）

E 2 一般研究（6 4 2 教室）

9月 1日 9:30-11:30

座長：佐藤幸江（横浜市立高田小学校）・一薫久美子（駿河台大学大学院）

E-1 「話し合う」情報モラルの授業

岡本弘之（聖母被昇天学院中学校高等学校）・浅井和行（京都教育大学）

E-2 埼玉県公立小学校における情報提供の現状-提供する内容とメディアの組み合わせに着目して-

一薫久美子（駿河台大学大学院）・杜正文・野村正弘（駿河台大学メディア情報学部）

E-3 児童の情報活用を支援するデジタル教材の検討

稲垣忠（東北学院大学）

E-4 映像メディアの理解と表現の指導に関する分析

佐藤幸江（横浜市立高田小学校）・中川一史（放送大学）・中橋雄（武蔵大学）・石川等（甲府市立里垣小学校）・黒川弘一・森下耕治（光村図書出版）

E-5 昭和 46 年度版小学校国語科教科書における説明文教材の映像メディアの理解と表現に関する分析

石川等（甲府市立里垣小学校）・中川一史（放送大学）・中橋雄（武蔵大学）・佐藤幸江（横浜市立高田小学校）・黒川弘一・森下耕治（光村図書出版）

シンポジウム「近未来の教育メディア環境と授業実践」（6 2 1 教室）

12:30-14:30

コーディネータ：中川一史（放送大学）・稲垣忠（東北学院大学）

デジタル教科書、タブレットなどの学習者用端末、電子黒板など、教育現場にはさまざまな新しいメディアが登場しています。フューチャースクール等、新たな学校像を探る試みも進められていますが、近い将来、教育現場のメディア環境はどのように変化するのでしょうか。学校現場での ICT 活用・情報教育に関する研究の第一人者である中川一史教授（放送大学）と、稲垣忠准教授（東北学院大学）によるコーディネートのもと、新たなメディアを活用した授業実践に取り組む現場の教員や、そうした学校をフィールドとした研究者を迎え、今後の可能性や課題点について討議します。

- ・清水 雅之（上越教育大学教職大学院 特任准教授）
- ・新田 晴之（東北学院中学校・高等学校 教諭）
- ・鳥越 和貴（横浜市立北方小学校 教諭）
- ・森下 耕治（光村図書出版株式会社 企画開発本部）

K 1 課題研究「教育における情報端末の活用」（621教室） 9月1日 15:00-17:00

コーディネータ：永田智子（兵庫教育大学大学院）

近年、タブレットPC、スマートフォンといった情報端末が、充実・多様化してきており、教育界に大きな変化をもたらしつつあります。総務省と文部科学省においても平成22年度から「フューチャースクール推進事業」及び「学びのイノベーション事業」を開始し、児童生徒一人一台のタブレットPCや学習者用デジタル教科書の活用などの実証研究が行われています。本課題研究では「教育における情報端末の活用」をテーマとして、学習者用情報端末や教材のあり方、新しい実践や方法論、教育効果や課題など多様な視点からの情報を共有・議論する場にしたいと思います。

K1-1 IWBと連動した学習者用情報端末の可能性

中橋雄（武蔵大学）・稲垣忠（東北学院大学）・中川一史（放送大学）

K1-2 授業での連携活用を前提とした情報端末の要件

林向達（徳島文理大学）

K1-3 ルーブリック型教材とタブレット端末を活用したメディア制作支援に関する事例研究

亀井美穂子・安藤祐里奈（椋山女学園大学）・小野寺善彦（仙台市立桂小学校）・稲垣忠（東北学院大学）

K1-4 小学校における情報端末活用授業の成立要件とその学習効果についての検証

豊田充崇（和歌山大学教育学部）

K 2 課題研究「教育におけるゲーム・ワークショップ」（631教室） 9月1日 15:00-17:00

コーディネータ：岸磨貴子（京都外国語大学）

実践しながら学ぶ（Learning by Doing）手法が学校教育現場においても着目されています。本課題研究では「教育におけるゲーム・ワークショップ」をテーマとして、学習者がゲームやワークショップといった実践しながら学ぶ（Learning by Doing）の学習活動のデザインについて、検討したいと思います。学習者は、ゲームやワークショップにおいて、「遊び」や「コミュニケーション」を通して、楽しみながら（時には没頭し）学習を進めます。しかしながら、活動自体が学習者にとって楽しいものであるため、「良かった、楽しかった」という表面的な学習で終わってしまう課題も残されています。そのため、ゲームやワークショップを通じた学習体験を内省し学びにつなげるための授業設計を検討する必要があります。そこで、本課題研究では、「教育におけるゲーム・ワークショップ」の事例をいくつか取り上げ、実践しながら学ぶ（Learning by Doing）手法に基づいた学習活動の教育効果や課題、方法論について多角的な視点から議論したいと思います。

K2-1 ゲームを通してアルゴリズムを学ぶ

田邊則彦・江守恒明（関西大学高等部）

K2-2 身体性の回復は可能か？～3D映像をめぐる～

大西誠（愛知淑徳大学）

K2-3 博物館におけるデジカメワークショップ-博物館の再発見と博物館機能の発見

宮下十有（椋山女学園大学）・久保禎子・名和奈美（一宮市博物館）

K2-4 学習教材「マスपीド」の小学校算数「素数」指導への利用

村川弘城・黒上晴夫（関西大学）

情報通信技術の高度化により、多様なメディアが利用可能であるが、人々のメディア接触(メディア利用や情報行動)は印象論で語られることが多い。NHK放送文化研究所や東大、ベネッセなどによるメディア接触の大規模調査はメディア教育やメディア・リテラシー育成の基礎的知見を提供してくれるが、こうしたデータを有効に活用するための議論も十分に行われているとはいえない。そこで、本セッションではメディア接触の知見を活かしたメディア・リテラシー育成、新たな枠組みでの調査研究、研究知見の統合やその活用など、幅広い視点から議論を深めたい。

K3-1 マスメディア接触からソーシャルメディア接触へ

和田正人(東京学芸大学)

K3-2 メディア・リテラシー・レベルの評価を試みるヨーロッパの研究をめぐる一考察

小平さち子(NHK放送文化研究所)

K3-3 若者のテレビ離れに関する実証的研究の概観

石川勝博(常磐大学)

K3-4 メディア日記法によるメディア活動の記録

後藤康志(新潟大学教育・学生支援機構)

日本教育メディア学会 2012年度 第1回研究会のお知らせと発表の募集

1. 開催日時：

2012年10月13日(土) 13時から17時(12時半より受付)

2. 開催場所：

〒470-3295 愛知県知多郡美浜町奥田 日本福祉大学15号館

3. 研究テーマ：国際連携・国内連携 新しい学びを求めて

学校間での連携、あるいは、地域・学外の各種機関と連携した体験型の学習、プロジェクト型の学習が各種行われてきました。学習者に本物の活動場面を提供し、実践的な力の獲得、学習の動機づけや主体性・能動的な学びを引き出すための学習としても期待されています。近年の情報通信技術の発達により、国内のみならず、国外との連絡も容易に行えるようになり、Facebookなどのソーシャルメディアの普及に伴い、世界中と継続的な連携を行うことも可能となっています。それらを支える学習者のインフォーマル・ラーニングのデザインもテーマになりつつあります。そこで今回は、国際連携・国内連携した学習活動に関する実践報告をもとに、効果的な活動設計、評価方法等について検討します。各校種からの発表をお待ちしております。

本研究会は研究発表(自由研究も含む)とミニシンポからなります。登壇者は現在調整中です。学校内にとどまらず、外部機関と連携した教育・研究活動に従事されている研究者・実践家をお招きし、取り組みの紹介、および、国内外と連携した学びの今後を展望して頂く予定です。

なお研究会テーマに限らず、自由研究の発表についても受け付けますので、積極的にご発表ください。

4. 参加費：

資料代1,000円

5. 発表申し込み：

氏名、所属、発表タイトルを、メールでお送りください。

日本教育メディア学会会員でなくとも発表できます。

6. 発表申し込み締め切り日：

9月8日（土）

7. 原稿送付締め切り日：

9月21日（土）締め切り厳守。次ページの要領にしたがって、メールでお送りください。

発表申込の際に、原稿フォーマットをお送りします。

また、研究会 web ページでダウンロードも可能です。

<http://jaems.jp/contents/kenkyukai/>

8. 原稿執筆要綱：

原稿は論文集にまとめます。

○ワード形式または pdf 形式の原稿をメールで送付してください。

○B5 版 1 行 20 字×40 行×2 段組枚数は 4 枚以上の偶数枚。余白は、左右・上下=23mm

○字体は明朝体 9 ポイント和文と英文の表題・名前・所属、要約、キーワード（5 個以内）

※原稿フォーマットは研究会 web ページ

(<http://jaems.jp/contents/kenkyukai/>)からダウンロードできます。

9. 懇親会のお知らせ：

研究会終了後、簡単な懇親会を予定しております。遠方のため、希望される方には懇親会会場での宿泊を手配いたします。参加費用は、懇親会のみ約 5,000 円、宿泊込で約 10,000 円の予定です。

10. 参加申し込み：

9月8日（土曜日）までに、以下の項目について担当者までお知らせ下さい。

☆ 研究会で発表する・しない

☆ 懇親会に参加する・しない

☆ 懇親会先（旅館）に宿泊^(*)（10/13）する・しない

(*) 宿泊は旅館のため参加者での相部屋となります。ご承知おきください。

☆ ご所属

☆ お名前

☆ ご住所・連絡先

11. 会場担当者（発表・参加申し込み、原稿送付先）：

日本福祉大学 国際福祉開発学部 佐藤慎一 (satoshin@n-fukushi.ac.jp)

◆ 学会費納入のお願い ◆

<納入のお願い>

2012年度(2012年4月1日から2013年3月31日)の年会費7,000円(学生会員4,000円 博士課程後期課程に在籍の方は、2011年度より学生会員に変更になりました。)が未納の方は、下記口座にお振り込みいただくか、郵便局備え付けの「郵便振替用紙」を用いて、納入いただくようお願いいたします。

なお、前年度までの会費が未納の方は、振込者名の後ろに年度を付加してお振り込みいただくか、郵便振替用紙に年度を明記の上、合わせて納入をお願いします。

<送金先>

(1) りそな銀行

店名：千里中央支店

預金種目：普通

口座番号：0124720

口座名：日本教育メディア学会

(ニホキョウイクメディアガクカイ)

(2) ゆうちょ銀行

口座番号：14160-8658501

口座名：日本教育メディア学会

(ニホキョウイクメディアガクカイ)

(銀行からの振込の場合)

銀行名：ゆうちょ銀行

店名：四一八店(ヨイチハチテン)

店番：418

預金種目：普通

口座番号：0865850

※他行からゆうちょ銀行への振り込み・・・店番418・口座番号0865850

※現金でゆうちょ口座へ振り込み・・・電信振込み請求書・電信振替請求書をご利用ください。

(手数料525円が別途必要となります)

※郵便貯金口座をお持ちの方は、ATMからの振り込みが可能です(手数料無料)。

その他、ご不明な点がございましたら、本学会のWebページの「入金口座について」をご参照ください(<http://jaems.jp/contents/admission/account.htm>)。

会員総数 365名・18団体

正会員 333名 学生会員 32名

団体会員 6団体 購読会員 12団体

(平成24年8月20日現在)

日本教育メディア学会 事務局

〒569-1095 大阪府高槻市霊仙寺町2-1-1 関西大学大学院 メディアミックス研究室内

電話.FAX 072-690-2419

学会ホームページURL <http://jaems.jp/>

E-mail office@jaems.jp

(平成24年8月20日現在)